



千八百七十八年六月六日刊行横濱ニヤツパンシキリール新聞抄譯

保護稅則發議ノ說



4041



414
A 937



千八百七十八年六月六日刊行横濱「ヂヤパン、ウイキリ」メ
「ル」新聞抄譯

保護稅則發議ノ説

我同業ナル日報「ヂヤパン」ヘラル「ル」新聞ノ去木曜日ノ刊行ヲ視
レハ紙中改定輸入稅則ノ草案ナルモノヲ登録セリ蓋シ此稅則
タル今日日本政府カ取設ケント欲スル所ノモノニシテ既ニ日本
政府ハ諸條約國ノ政府ニ逼リ此議ヲ領諾セシメシカ為メ夫々
條約國ノ首府ニ在ル日本公使ヲ以テ此議ノ申入レヲ初メタリ
然ルニ是迄吾人ノ聞及ヒタル所ニ依レハ日本政府ハ在伯靈ノ
日本全權公使ヲ以テ日耳曼ノ外務省ニ此稅則草案ヲ送り改正
ノ議ヲ申込ミタル而已ニシテ其他ノ政府ヘハ未タ何等ノ議ヲ
モ申通セサルト云フ是レ實説ニ相違ナキナリ
仮令ヒ日本政府ト雖モ獨リ日耳曼政府江而已此議ヲ申入レス

大正十一年四月
鬼頭悳次郎譯

シテ其他凡ソ此税則改正ニ付キ關涉アル諸國ノ政府ハモ同様ノ議ヲ申込ムヘキハ當然ノコトナレハ先ツ暫ク諸政府ヘモ申込ヲナシタルトナスモ可ナランカ

日耳曼政府ハ斯ク日本公使ヨリ申込タル税則改正ノ議ヲハムボルグ商法會議所ニ付シ以テ會議所ヲシテ能ク之レヲ調査點檢シ其利害得失ヲ商議セシムル所トナレリ

依之自他ノ諸國モ多クハ此議ニ付テ公然何分ノ確答ヲナス以前ニ當リ必ス日耳曼ノ例ヲ學ヒ申込ミノ件々ヲ詳細其商法會議所ニ申通シ之レヲ調査點檢シ其衆論ニ付スルヤ吾輩ノ保証スル所ナリ各國此等ノ議ヲ商法會議所ニ付シ之レヲ能ク調査點檢セシムル所以ノモノハ他ナシ蓋シ商法會議所ナルモノハ其國ノ商業上一切ノ事ヲ統フル所ニシテ即チ其國商業ノ中心ナリ而シテ共社負タル者ハ能ク物理ニ通シ最モ博識多才ノ士

ノ共力結社セシモノニシテ此輩ノ商業上ニ於テ經驗ヲ得シモノ大モ亦大ナレハナリ

蓋シ此税則改正ノ議ニ付テハ條約國中一國タリト非常ノ變更改正ヲ為スニアラサレハ容易ニ此議ヲ領諾スル所ナキハ今日リ萬々先言豫定シ得ル所ナリ

然ルヲ若シ日本政府ハ今度税則改正ノ議ヲ條約諸國ニ申込ニ海外ノ商法會議所ノ衆議ニ付スルニ於テハ必ス若干ノ評論ニ出合フモ之レヲ用ヒ異論ノ出ツルモ須ラク之レヲ深思熟考スルノ煩勞ヲ厭ハサルアラハ其結局ハ嚮キニ現行ノ税則ヲ廢シ更ニ之レヲ改正セシトヲ申出セシ時既ニ自カラ豫定セシ所ノ胸算ト甚々異ナルモノヲ見ルニ至ラン

依令ヒ日本政府ハ此議ニ付キ近ク當國在留ノ公使ニ計ヲスレテ遠ク在外ノ日本公使ヲ以テ彼地ノ政府ニ申込ニシト雖氏語

リ此談判ノ結局ハ何レモ東京駐劄ナル外國公使ノ要分擔任ス
ル所トナルハ當然ニシテ實ニ左モアルベキナリ蓋シ東京駐
劄ノ外國公使等ハ唯結局ノ談判ヲ為ス迄ニシテ終始ノ事ニ與
ラサレハ此舉ニ付辛勞盡カスル所ノモト大ニ減少スルニ至ル
其故何トナレハ日本政府ハ這回此議ヲ條約國中ニ申込ムニ當
リ當^テ在京ノ保護稅論者輩カ政府ノ有司ニ忠告諭言セシモノ
ヨリモ尚ホ模樣ノ異ナルアリ隨テ又忠告ヲ加ルモノアラハ自
然有司輩ノ智識開達ニ徒ラニ謬說ニ迷フナク恰モ駐劄ノ外國
公使等ト同様文明開化ノ意志ヲ抱クニ至レハナリ
抑モ此在京ノ保護稅論者輩カ其意見ヲ日本政府ニ陳シ諭言ス
ル所急速容易ナルモ全ク口ニ言フ迄ニシテ之レヲ實施スルナ
等固ヨリ難ク實ニ言行一致セサルモノト云フヘシ加之此保護
稅論者ノ言論ヨ吐露スルナ狂妄過激ナルハ是レ此輩カ全ク經

濟學ノ原理ヲ辨知セサルノ証據ナリ

蓋シ本國ノ諸政府ハ必ズ今度日本政府カ共東京駐劄ノ公使ニ
稅則改正ノ議ヲ談セスレテ直ニ日本政府カ此議ヲ申呈シテ談
判ニ取掛ラントスルヲ許シ此申込ニテ受付ルアラント吾輩ハ
假定シ得ル所ナリ
仮令ヒ日本政府カ斯ノ如キ意志ヲ抱キ其國駐劄ノ公使ヲ經ス
レテ直チニ本國ノ政府ニ此議ヲ申呈セシト雖モ其目的タル稅
則改正上ニ於テハ駐劄ノ公使ヲ經テ該論スルモ之レヲ經スレ
テ直チニ本國ノ政府ニ申込ムモ毫モ異ナリタル所ナク苟モ改
正ノ能ク整フナラザラサルヘシ唯本國ノ政府ハ鄭重ニ此申込
ミヲ受付ケ正々堂々トシテ改正案ニ就テ該論スル迄ナラン
蓋シ日本政府カ悉ク本國ノ政府ニ此議ヲ申込ミテ駐劄公使ノ
手ヲ經サレ所以ノモノハ他ナシ今日本政府ノ官廳社會中ニ在

リテ説ヲナスモノアリ云ク日本駐劄ノ外國人中官負商人ヲ論
セス其説ノ歸ス所衆論ノ赴ク所ハ本國ニアル巨萬ノ人民ニ
シテ曾テ日本ノ事ニ干渉セシ一層鮮少ナルモノヨリモ日本
人民ノ請求ニ對シ一層薄情ナリト是レ疑ナキヲ免レサル所ナ
リ實ニ駐劄公使ノ薄情ナルト云フカ如キハ其當ヲ得サルモノ
ニシテ毫モ斯ル思想ヲ懷クヘキノ理由ナシト雖氏官負社會中
斯ル念慮ノ存スルアレハナリ

吾輩ヲ以テ之ヲ觀ルニ日本政府カ此地駐劄ノ外國公使等ヲ經
スシテ直チニ本國ノ政府ニ申呈シ以テ今度ノ如キ非常ノ處置
ニ出テタル所以ノモノハ全ク此念慮アルヨリノヲナレハ今度
ノ日本ノ處置ヲ以テ日本政府カ歐洲諸政府ニテハ駐劄ノ公使
ニ此スレハ一層日本ノ事狀ニ暗ク且ツ日本ノ事ニ関涉少ナキ
カ故ニ此様ニ棄レテ本國ノ政府ヲ騙^セントノ意アルヨリシテ

斯クハナシタルト云フヨリハ右ノ念慮アレハコト斯クハナシ
タルト云フヲ以テ一層確實公平トナスナリ

尚ホ且ツ此度ノ如キ非常ノ處置ニ出テタル所以ヲ舉ケシニ今
國家ノ形狀中最モ人心ヲ感動セシタルノ一大害アリテ其挽回
醫治シ得ヘキヲ日本政府ノ確信スルアレハナリ按スルニ一大
害トハ則チ稅權ノ自由彼ノ權内ニマリテ我ノ權マニスル能ハ
サルヲニシテ之レヲ挽回醫治セシカ為メニ日本人民ノ熱心ス
ルヲ云フナランカ

若シ内外ノ新聞紙上ニ於テ日本政府ノ耳目タル新聞記者等カ
過激ノ説ヲ吐キ公然相論スル所ハ則チ日本政府ノ所見ヲ真ニ
馮出明示セシモノト見做スアラハ紙工ニ登錄スル所ノ改定輸
出稅則ハ當時ノ執政者ヨリ之レヲ視レハ實ニ嫌疑スベキモ
ノニシテ全ク外國人ノ籠絡中ニ落テタルト云フナラン

今ヨリ大約三ヶ年以前保護稅論者カ日本ト各國トノ通商條約
ニ於テ其不公平ナルヲ唱ヘシ時日本政府ハ怡モ教徒ト其宗
旨ヲ改ムル時ノ如ク熱心以テ此說ヲ妄信シ當時施行ノ稅則ヲ
殘ラス廢止センヲ試ミタリ加之當時其說ノ所ハ海外諸國ト
通商條約ヲ締約スルヲ以テ日本國ノ面目ヲ失フト云ヒ其獨立
ヲ傷フト云ヒ其君主權ヲ破壞スルト云フ迄ニ至レリ
嚮キニ徳川政府ノ政權ヲ握リシ日ニ當リ政府海外諸國ノ籠絡
中ニ落ナテ條約ニ調印シ其害施テ今日ニ及フ所ノモノニ付テ
今ノ政府カ慷慨忿怒スルヲ宥メンニハ條約書中ノ各條各款ヲ
廢馳スルノ外他ニ道ナキハ吾輩ノ萬々保証スル所ナリ
抑モ現行ノ條約書中各條各款ハ日本天皇陛下カ其意ノ向フ所
其好ム所ニ依リ適宜至當ト思考スル所ノ稅ヲ商品ニ賦課スヘ
キ君主權ニ違背スルモノナレハナリ

斯ル見込ヲ以テ嘗テ外交談判ノ行ハレタルヲアリシカハ古今
吾輩ノ聞知セサル所ナリ若シ斯ル談判ノアリシナハ其時コソ
ハ歐洲ノ諸政府ハ日本政府ノ為ノ愛情ヲ垂レ微笑シナカラ
日本政府ノ述フル所ノ說ヲ聽聞スルヲ日本政府カ目撃スルハ
日本ノ如キ外交新入者ニ取リテハ必ス貴貨タルヘキハ明了ナ
リ夫レ歐洲諸政府ノ如キハ英モ佛モ獨モ其通商條約ノ完全ナ
ル怡モ網細工ノ如キヲ以テ相互ヒニ便益ヲ計リ連合スルモノ
ナレハ豈ニ日本ノ國益ヲ而已計ルノ理アラレヤ
斯ル外交談判ヲナスト云フカ如キ愚說ハ我貴重ナル新聞紙上
ニ於テ論破スルアノハサレカ故ニ此等ノ事ハ嚮キニ斯ル妄說
ヲ吐キシ内國ノ新聞紙ヲ以テ論破セシムルヲヨントス
尤ニ日本政府ハ斯ル狂妄ノ處置ニ出スニテ斷然事ノ行ハレ難
キ所ヲ見捨テ海外諸國ヲ相談相手ニ取り何レ様ニカ談判ノ整

フヘキ意志ヲ抱キ這回ノ申込ニテ為シタルハ賢ニ日本政府ノ
為ニ賀スヘク祝スベシ
若シ日本政府カ現行ノ稅則ヲ以テ日本ノ國益ヲ傷ヒ國利ヲ害
スルモノナリト云フテ一訴訟ヲ起シハ成ル程英國ハ東洋諸國
ノ貿易通商上ニ於テ卓越タルカ為メニ英國ヲシテ此日本ノ訴
訟ニ付テ判決ヲサシメナハ公明正大ノ處分ヲ為スニ至ラザ
ルヘキハ吾輩モ信スル所ナルカ故ニ内外ニアル日本ノ稅則改
正官等モ然カ信スヘキハ當然ナリ成ル程英國ハ東洋ノ貿易上
ニ於テ關涉ヲ有スルノ最モ大ナルカ為メニ或ハ公明正大ノ判
決ヲササンカナレト彼石炭ノ一項ニ關スル事ヲ除ケハ未タ嘗
テ英和ノ間ニ於テ萬國取極ノ公道ヲ犯シテ一モ視ルヘキ訴
訟ヲ起シタルノナク此石炭一件類似ノ事ヲモ生シタルノナシ
蓋シ日本ノ輸入稅ナルモノモ亦萬國ノ取極メニ據テ制定セシ

モノタリ但シ此石炭一件ノ誤解ハ其輸出稅上ニ影響ヲ及ホス
迄ニシテ輸入稅上ニハ關係ナク又之レヲ修正改定セルト欲セ
ハ日本政府ヨリ唯壹通ノ公文ヲ送りナハ何時ニテモ行フコトヲ
得ヘキモノタリ(按スルニ本文ノイハ記者ノ論スル所ハ何故日
耳曼政府ヘ而巳前以テ稅則改正ノ議ヲ申込ニ英國ハ持込マキ
ルカト云フノ意ナラン)
夫レ世人ノ能ク知ルカ如ク現行ノ稅則ハ今ヨリ丁度拾貳ヶ年
以前江戸ニ會議ヲ開キテ取極メタルモノナリ而シテ此稅則ハ
舊條約書ニ添付ノ稅則ヲ改正シ輸出入品共其價格ニ應シ五分
ツノ稅ヲ賦課スルコトニ定メタルモノタリ
現今ノ稅則申輸入ノ部ハ若干ノ廉々ヲ改良スルニ適シ且從價
稅ヲ廢シ更ニ從量稅ヲ課スルハ容易ナルヘシ然リト雖も輸入
稅ノ收額頗ル鮮少ニシテ為メニ日本ノ歲入上ニ不足ヲ生シ

國家ノ殖産ヲ害スル云フカ如キハ吾輩ノミク信ヲ置ク能ハ
サ所ナリ
抑モ輸入税額鮮少ナルカ為メニ歳入上ニ不足ヲ生スルト云ヒ
國家ノ殖産ヲ害フト云フハ常談ナラハサテ置キ眞實ノ心ヨリ
斯ク云フモノナランニハ是レ實ニ淺見薄識ノ然ラシムル所ナ
リ
經濟學ノ發明最近ニ係ルト此學ノ真理ノ擴張遲速如何トニ
付テ深思熟考スルキハ日本ノ如キ漸ク今其開達ノ意ヲ發シ就
産ノ道ニ新入セシ國ニシテ經濟ノ道ニ於テ僻見誤謬ノアルナ
ラシニハ實ニ驚愕ニ堪ヘサルベシ蓋シ文化未タ淺ク經濟ノ道
未タ深カラサル國ニ於テハ何地モ此僻見誤謬ヲ免レサルモノ
ニシテ我舊邦古國ニ於テモ既ニ行ハレタル所ナリ
今尚ホ歐米ノ大學者輩カ衆庶ヲシテ此謬見ヲ脱除セシメント

スルモ容易ニ能ハサル所ナルニアラスヤ歐米ノ文明ニシテ既
ニ尚ホ斯ノ如シ況ヤ日本ノ文化尚淺キニ於テ此謬見ナキヲ見
ント欲スル豈ニ得ハケンヤ
是ニ由テ之レヲ觀レハ日本ノ新聞紙中税則改正ノ議ニ付テ許
多ノ論說ヲ登載スル中百中ノ一説タリ氏輸入税ヲ増加セハ政
府ノ歳入上ニ多キヲ加フルヨリハ却テ輸入減少シ収額鮮少ナ
ルニ至ルヘキ事實ヲ毫モ悟リタルモノナキハ尤ノ事ナリ
熟々日本新聞記者ノ論スル所ヲ觀ルニ此等ノ事ニハ少シモ注
目セシテ唯其嘆スル所ノ要點ハ輸入税低賤ナルカ為メニ年
々大歳省ニテ巨萬ノ金額ヲ失フト云フニ過キス
夫レ歳入ヲ増加シ併セテ國家ノ殖産ヲ起シ國益ヲ加フルノ良
法ハ實ニ輸入税ヲ引下クルニアルト云ハ、日本新聞記者中十
中ノ九迄ハ此理ヲ解ハスレテ唯奇怪ノ説ト見做スアラン

尤モ日本政府ニ於テハ此輸入税ヲ低クスルニ歳入ヲ増加シ國
益ヲ起スノ良法ナリトヲ解スルアリテ内國新聞ノ如ク左マテ
不學ニアラサルハ固ヨリ論ヲ誤タス實ニ政府ハ熱心以テ税則
ノ改正ヲ欲スルモノナリ尤モ其之レヲ改正セント欲スル所以
ノ目的ハ海關収税ヲ増加セントスルニアラステ之レト全ク
相異ナリタル主旨ニアリ請フ之レヲ述ヘン
夫レ政府カ目的トスル所ハ專ラ國民中ニ製産ノ道ヲ擴張興起
セント欲スルニアリ是レ最モ賢良ノ策ニシテ實ニ稱賛スヘキ
目的ナリ然ルニ政府ハ内國ノ製産ヲ擴張興起スルノ良法ハ保
護税則ヲ設クルニアリト想像臆斷スルニアリ是レ最モ誤解ノ
甚シキモノニシテ矣止千萬ナリ
蓋シ此度税則改正ノ議ヲ發セシハ此保護税論者ノ誤解ニ依ル
モノタルトハ改正税則草案ヲ概視スルニ依テ明了ナラン

他日我同業ナル在京ノ新聞記者輩カ曾テ此税則草案ノ確實如
何ニ付テ疑團ヲ懷キシモノ、氷解スルヲ待テ吾輩ハ税則ノ細
領ニ付テ充分論議ヲ盡クス所アラント欲ス
此改正税則草案ノ一件ニ付テ東京「ギム」新聞記者ハ疑團ヲ
置錯フタルヲ視ルニ至ラントハ吾輩ノ信シテ先見シ得ル所ナ
リ(按スルニ本年七月三日刊行ノ東京「タイム」新聞中海關税則
草案ノ説ナルモノヲ登録シ日本政府ヨリ歐列諸政府へ條約改
正ノ議ヲ申込ミタルヲ以テ實説トセサルヲ云フナラシ)
成ル程「ギム」パン、ヘラルド新聞紙上ニ登録セシ所ノ條約改正草
案ト唱フルモノハ唯其大要ヲ舉ケシモノナルトハ萬疑ナシト
雖氏其草案ハ決シテ偽造等ニ出テシモノニ之レナク現ニ日本
政府ノ申呈セシ所ノモノヲ正シク畧載後萃セシモノニ相違ナ
キナリ

蓋シ税則草案ノ大体ハ僅カニ一短文中ニ論載スルヲ得ヘキモ
ノナレハ請フ之レヲ左ニ述ヘン
細ニ其税則草案ニ就テ之レヲ視レハ一方ハ無税品ヨリ始マリ
他方ハ輸入禁制品ト時宜ニ依リ輸入ヲ禁制スル物ヲ以テ終リ
輸入税ノ割合タル下五分ヨリ三割迄ノ多キニ及ホシ其間々各
々五進シテ五分ヨリ壹割ニ及ホシ壹割五分ニ上リ都合六段ノ
階級ヲ分テ從量税ト從價税トノ區別悉ク相存スルモノナリ
蓋シ日本政府ノ財政上ニ就キ其欠點ヲ擧ケ知識ノ淺キ所見ノ
進マサルモノ而已ヲ論旨トシ徒ラニ論辨スルハ日本政府ノ為
メニ不公平ナラン依テ今吾輩ハ此文ヲ結ヒ筆ヲ闕ントスルニ
先立テ日本政府ノ計畫ニシテ未タ内外ノ新聞紙上ニ於テ稱讚
セサル所ノモノニ就テ注目センコトヲ悦スルナリ計畫トハ他ナシ
日本政府カ税則中ヨリ全ク輸出税ヲ脱除スルノ企アルト是レ

ナリ

果シテ日本政府カ輸出税ヲ廢止スルアヲハ為メニ日本ノ貿易
上ニ便益ヲ生スルハ固ヨリ其幸福ヲ益スヤ疑ヲ容ルヘカラス
尤モ此舉タル後令テ保護税ノ主義ニ出ルニモセヨ兎ニ角是迄
目下ノ執政家輩カ猛烈ノ改革ヲナシ為メニ各國ニ於テ進歩ヲ
好ム信友輩ノ驚愕ヲ喚起セシモノ、中第一等ニ列スヘキ貴重
ノ事舉キリ
又此輸出税廢止ノ舉ハ固ヨリ保護ノ主義ニ出ルモノナレハ
斯ノ種々ノ保護法ヲ設ケ保護税ノ坵地ニ埋マリテ彼ノ信實ト
道理ト經驗トノ三者ニ據テ構造セシ自由貿易ナル確然不拔ノ
域ニ達スルノ道ヲ知ラサルモノト見做ストモ此舉ハ容易ニ共
貴キヲ失ハサルベシ



